

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 輪之内町地域公共交通会議 (輪之内町)

平成19年 9月14日設置

令和 4年 3月30日 輪之内町地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和 4年 4月～令和 8年 3月)

令和 5年 6月21日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和 6年 3月21日 令和5年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

# 1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

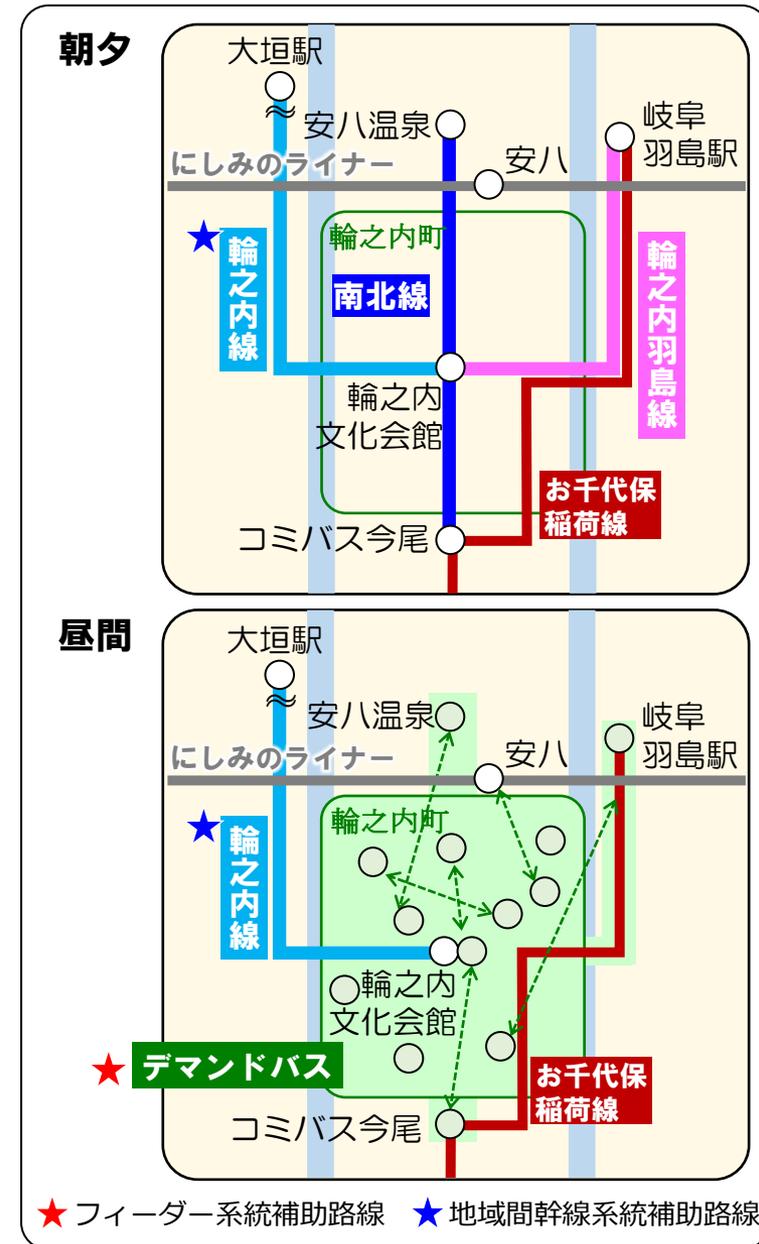
## (1) 輪之内町の公共交通

- 人口：9,094人（令和6年11月1日現在）
- 町内に鉄道駅、タクシーの営業所なし。
- 公共交通の主体はバス（拠点：輪之内文化会館）
- 地域間幹線系統：輪之内線(地域間幹線系統補助路線)
- 町自主運行バス：輪之内羽島線、南北線、輪之内町デマンドバス(フィーダー系統補助路線)
- 朝夕は通勤通学利用に、昼間は買い物や通院利用に特化した運行を実施。

## (2) 輪之内町地域公共交通計画

- 策定の背景：総合連携計画を踏まえて、路線再編事業・利用促進事業を推進してきたこと明らかとなった、新たな課題への対応。周辺市町の自主運行バス路線変更への対応。
- 基本理念：ずっと住み続けられるまちの一翼を担う公共交通ネットワークの維持・構築
- 基本方針：
  - ①多様なニーズに対応するサービスの提供
  - ②利用促進に向けた取り組みの推進
  - ③持続可能な公共交通の構築
- 主な重点事業：
  - ①-2 海津市コミュニティバスの町内区間への停留所設置
  - ②-3 お試し乗車券の配布
  - ②-4 利用目的に応じたPRの実施

公共交通ネットワーク概要図



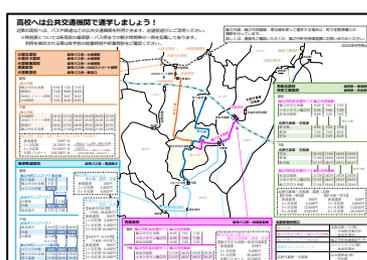
## 2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	考察
デマンドバス ドア to ドア の開始	自宅前からデマンドバス に乗り降りできる制度を 導入（事前登録した高齢 者・障がい者が対象）	登録者数80人 利用実績16人/日 (全利用者の約38%) (R6.10～12)	自宅からバス停までのアクセスが 向上したことで、利用時の負担が 軽減され、公共交通の利用促進や 外出機会の増加につながった。
高齢者回数券 の発行	65歳以上の方を対象に、 デマンドバス回数券の購 入額の半額を助成	販売実績 647冊	お得にデマンドバスを利用できる 制度により、公共交通の利用促進 や外出機会の増加につながった。
お試し乗車券 の配布	デマンドバスのお試し乗 車券を配布	1,346枚配布	デマンドバスを利用するきっかけ が提供できたと考えられる。
通学定期券購 入補助制度	高校生のバス通学定期券 購入者を対象に購入費の 1/3を助成	申請件数 47件	通学での公共交通利用促進により、 経済的な負担や保護者の送迎の負 担が軽減できたと考えられる。
利用目的に応 じたPRの実 施	中学生に公共交通を利用 した通学方法、通学定期 補助制度の情報を提供	中学3年生に配布 配布実績 91枚	周辺高校への公共交通での通学方 法のPRにより、公共交通を利用 した通学者の増加が期待される。
バス停標識の 視認性向上	デマンドバスのバス停標 識を見やすく更新	最近の新設バス停 を除く150バス停	わかりやすさの向上、安全性の向 上が期待される。

ドア to ドア  
導入チラシ



中学生向けチラシ



バス停標識の更新



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標	評価指標	実績値			目標値 (R7)	考察
		R4	R5	R6		
多様なニーズに対応するサービスの提供	輪之内羽島線(人)	5,771	8,052	○ 12,922	8,000	通学定期券に加え、通勤定期券の利用が大きく増加し、目標値を達成した。
	南北線(人)	2,215	1,324	✕ 1,188	2,200	海津明誠高校の生徒数の大幅な減少に伴い、利用者数が減少し、目標値を達成できなかった。
	輪之内町デマンドバス(人)★	8,670	9,577	✕ 9,355	11,000	コロナ禍以降、利用者数は回復傾向にあるものの、利用が多かった安八温泉での乗降者の回復が鈍く、目標値を達成できなかった。
	計	16,656	18,953	○ 23,465	21,200	
利用促進に向けた取り組みの推進	公共交通利用者数の割合(%)	—	—	今年度測定予定	6.0	※令和7年1月実施の住民アンケート調査で測定予定
持続可能な公共交通の構築	人口1人あたりの年間負担額(円/人)	4,174	4,043	✕ 4,193	3,750	燃料費や人件費の高騰による運行経費の増加が大きく影響し、目標を達成できなかった。

フィーダー系統確保維持  
R6目標値 11,000

<b>計画目標の現在の到達点 (目標の達成状況・課題の分析)</b>	<b>今後の取組み方針</b>
<p><b>デマンドバス</b></p> <p>利用者数は回復傾向ではあるものの、コロナ禍前の約86%にとどまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予約システムのログから利用状況や稼働時間等を分析することで、「ドアtoドア方式」の導入による効果や影響を検証し、制度や改善や見直し策を検討していく。</li> <li>・ 引き続き、デマンドバスを利用した具体的な「おでかけ」の紹介（安八温泉、バロー羽島インター店等）、お試し乗車券の配布等、様々な手段によりデマンドバスの周知を行い、「利用してもらおう」きっかけを提供していく。</li> </ul>
<p><b>南北線</b></p> <p>海津明誠高校の生徒の減少に伴い、利用が伸び悩んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者のほとんどを占める海津明誠高校の生徒数が3年間で3割以上減少し、利用者数も大きく減少している。利用状況や、アンケートによる意見を踏まえ、路線のあり方を検討していく。</li> </ul>
<p><b>年間負担額</b></p> <p>燃料費高騰、運転手不足に伴う人件費高騰等により、年間負担額が増加傾向。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通に係る経費が必要不可欠なものであると、広く理解していただくため、定期的な情報提供を行うとともに、利用者増加施策を推進する。</li> <li>・ 年間負担額の抑制のため、利用状況に注視しつつ、必要に応じて路線等の見直しを含む検討も行う。</li> </ul>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	デマンドバスの体験乗車会の開催など、幅広い年齢層に利用のきっかけとなるようなイベント等の開催について検討することを期待。	デマンドバスの利用のきっかけをつくるため、引き続き、高齢者の集まる場等でお試し乗車券を配布した。	引き続き、イベントでのPR、お試し乗車券の配布、中学生への進路説明会等を実施し、利用のきっかけをつくっていく。
	インターネット予約について、高齢者向けのスマホ教室等を開催し、利用が想定される層に対して積極的にアプローチすることを期待。	デマンドバスのドア to ドア方式導入時にあわせ、利用方法を記載したチラシを配布することで、利用方法の周知を図った。	引き続き、利用方法の周知を実施し、特にインターネット予約の説明も強化していく。
	デマンドバスのドアtoドア導入検討に向けては、既存の公共交通とのすみ分けや運転者の負担、他の予約への影響など、幅広い視点から検討することを期待。	令和6年10月からの実施にあたり、対象者を高齢者や障がい者に限定することで、既存の公共交通とのすみ分けに配慮した。また、事前に現地確認を行い、運転者の負担にも配慮した。	予約システムのログから利用状況や稼働時間等を分析することで、「ドアtoドア方式」の導入による効果や影響を検証し、制度の見直しや改善策を検討する。
	にしみのライナーリレーバスの終了後、利用状況など必要に応じ、代替交通を検討。	デマンドバスが名神安八バス停に乗り入れ、にしみのライナーへの接続を確保している。	引き続き、にしみのライナーの利用促進のためPRを行う。

※前回：令和6年3月21日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	デマンドバスのインターネット予約システムについて、利用者にとってより利便性の高い仕組みとなるよう検討。	インターネット予約システムの改善を検討。	引き続き、インターネット予約の周知を進めるとともに、ネット予約受付時間の拡大を電話予約に影響の少ない範囲で検討する。
	引き続き住民ニーズを汲み取っていただきながら利便性向上と利用促進に努められることを期待。	デマンドバスのドアtoドア方式の導入を検討。	ドアtoドア方式の導入に向けて、事業者等との協議を進めていく。

## 計画期間中のスケジュール

実施項目	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
施策実施の確認 実施内容の評価 プロセス評価	事業実施 → 実施状況の確認・評価 → 反映 → 中間年の目標達成状況評価 → 最終年の目標達成状況評価										
目標達成状況の評価 指標の評価	評価指標1・3のチェック → 中間年の目標達成状況評価 → 最終年の目標達成状況評価										
課題の共有	実施による課題共有										
改善と反映	次年度実施の改善と反映										

## 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輪之内町 地域公共交通会議			①							②		
主な行事			■ (補助申請) 確保維持改善計画				○ 次年度予算要求				■ 第三者評価委員会	
実施すること	A 前年度事業評価に基づく改善と反映 → P 次年度事業計画の検討 → C 事業実施状況の確認 今年度事業の検証 → A 課題共有・改善検討											
	D 事業実施 (定期的なワークショップの開催等)											

### 【公共交通会議の実施状況】

- 第1回会議 令和6年6月17日 主な議題：確保維持計画，デマンドバスドアtoドア方式導入
- 第2回会議 令和7年1月20日 主な議題：自己評価，取組事業

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月20日

協議会名: 輪之内町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
名阪近鉄バス(株)	輪之内町デマンドバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンドバスの利用のきっかけをつくるため、高齢者の集まる場等でお試し乗車券を配布</li> <li>・デマンドバスのドア to ドア方式導入にあわせ、利用方法を記載したチラシを配布</li> <li>・ドア to ドアの実施にあたり、対象者を高齢者や障がい者に限定することで、既存の公共交通とのすみ分けに配慮</li> <li>・デマンドバスが名神安八バス停に乗り入れ、にしみのライナーへの接続を確保</li> </ul>	A 事業は、計画に基づき適切に実施された。	C 【目標】年間利用者数 目標値:11,000人/年 実績:9,355人/年  [要因]コロナ禍以降、利用者数は回復傾向にあるものの、利用の多かった安八温泉での乗降者の回復が鈍く、目標値を達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントでのPR、お試し乗車券の配布、中学生への進路説明会等を実施し、利用のきっかけをつくる</li> <li>・利用方法の周知を実施、特にインターネット予約の説明を強化</li> <li>・予約システムのログから利用状況や稼働時間等を分析することで、「ドアtoドア方式」の導入による効果や影響を検証し、制度の見直しや改善策を検討</li> <li>・にしみのライナーの利用促進のためPRを実施</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月20日

協議会名:	輪之内町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>現在、町では広域的な移動に対応し町と大垣駅前を結ぶ幹線である「輪之内線」、輪之内線に接続し、町内の移動を確保するフィーダー系統である「輪之内町デマンドバス」、朝夕の通学や通勤の移動に対応する「輪之内羽島線」及び「南北線」を運行している。さらに、鉄道や隣接市町のコミュニティバスとの連絡、高校生のバス通学定期券の補助など利便性向上を図っている。</p> <p>自主運行バスは、高齢者等の移動制約者の買い物や通院、高校生の通学のための交通手段であり、特に輪之内町デマンドバスは、昼間時に高齢者等の移動制約者の交通手段として不可欠なものである。さらなる利便性向上を図りながらも、できるかぎり財政負担の軽減を図り、便利で効率的な公共交通を構築することを目的に、地域公共交通確保維持事業を活用し、今後も維持していく必要がある。</p>